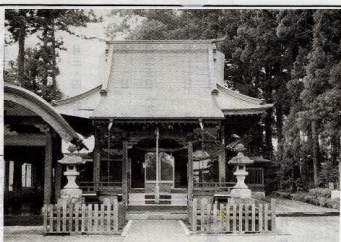


榛名神社社報

発行日 平成十一年七月十五日
 発行所 沼田市榛名町二八五一
 電話 〇三六 〇二六五
 〇三五 〇五一一
 発行人 金子浩隆



上の写真は、昭和5年頃作成された「絵葉書」
 今も変らぬ清々しい榛名の森に
 囲まれている拝殿。



上の写真は、現在の拝殿

＝榛名神社拝殿＝

榛名神社由緒

- 一、御祭神 三柱一座
- 埴山姫命(榛名大神) 一 五穀豊穣一
- 倭建命(武尊大神) 一 土地守護一
- 菅原道真命(天満天神) 一 学問守護一
- 建御名方命(諏訪大神) 一 開運安産一
- 一、由緒

一、二九八年、上野国神名楨利根郡の部に、寛高大明神は從一位に薄根大明神は從二位にその御廷がみえており、その神階の高さからみると、朝廷の尊崇が大変篤く、土地の人々からも崇敬されている大社でありました。

寛高大明神とは倭建命でも、もとは現在の沼田公園内に鎮座され、沼田一帯の総鎮守であります。また、薄根大明神は菅原道真命で、古来より現在の社地に鎮座され広く崇敬を受け、その参道は梅樹並木でありました。

それそれのお宮がそれぞれの場所から、尊崇され親しまれてきたのですが、享祚三年(一五三〇)沼田万葉斎祭奉は、新たに城(倉内城)を寛高大明神の社地に建てたことを決め、大神を現在の場所にお祀り申し上げました。その時に同時に、すでに幕岩城内に勧誘されていた順泰の妻の産土神である榛名大神(埴山姫命)、もお祀りして、武尊大神(寛高大明神)、天満大神(薄根大明神)、榛名大神(榛名大神棟立)、三天神を一社に奉祀し、順泰は、御社殿を建立し、一六一五年、真田浩吉公が改築をして、今日に至っております。

一〇)に奉納された梵鐘に、白根郡榛名権現の名が見えるのは必ずしも順泰の時に榛名の名が記されたとは限らないといえます。

その後、榛名満行大権現として、一帯の総鎮守と称えられました。明治として、榛名大神と改めま

尚、明治五年、氏子分離の訴訟があり、群馬県の出示により、上之町・中町・下之町・坊新田町、

鍛冶町・馬喰町は、須賀神社の氏子に改め、現在に至っております。

以後、明治六年郷社に定められ昭和三年に縣社に昇格しましたが、昭和二十一年宗教法人となりました。

また、諏訪大神は、古来、瀧郷(今の上町)に鎮座され、寛政年間、榛名神社の西に遷座せられました。明治四十一年、合祀されました。(御社殿は上入屋神社の御社殿となった)

当社は、沼田氏・真田氏・本多氏・土岐氏と代々城主の尊崇を受け、数々の公事神の記録がありますが、現在も、本殿御扉の上には真田家の家紋である六文鏡がはつきりと描かれています。また、老中となつた本多伯耆守正永公卿奉建の鳥居も現存しています。

社頭講話

お宮参りの意味

私たちはすべて神様といっしょに暮らしています。自分一人だけで生きているんだという人は恐ろしくないでしう事象、私たちは、生まれてから死ぬまでずっと神様と一緒に死んで幽世(へくりと)に運つた(帰つた)後でも魂の時から志留國を受けるのであるから日本人の生活はいつも神様と一緒に暮らしているのです。

だからこそ、皆さんがお宮参りすることを、とても喜ぶし、苦しい時の神頼みと言われます。苦しかったり、願いがあったら、そのときはお宮参り下さい。誰に遠慮せず、母の機に入るのもときはお宮参り下さい。誰に遠慮せず、そしてこのお宮参りは皆さんの先祖からの慣習なのです。日本人の伝統なのです。皆さんのおじいさま、ひいおばあさま、そのまたおじいさまや、ついでにだっことなのです。神様は、ずいっと、見守りつづけて下さっています。

ここで、皆さんにひとつお願いがあります。神様にお願いをして、それがかなったときは、お礼参りを、自分の力だけでかなったかのように思いがちです。ぜひ、神様にお礼のお参りをしてください。神様も、心からお喜びになります。必ずお参り下さい。



皇居参観・鶴岡八幡宮正式参拝
 氏子総代・敬神婦人会合同研修旅行
 平成11年3月15日、16日の二泊二日の日程で氏子総代・敬神婦人会合同の研修旅行が行われ皇居参観、鶴岡八幡宮を正式参拝いたしました。

Q & A

Q なぜ食事の時「いただきます」と言うの？
 私たちの食卓にのぼるものは、すべて自然の恵です。水や太陽の恵により育つたものです。わかしから日本人は生かされた自然の恵の中に、神様のお力で私たちが生かされているのです。なにげなく言っていることばですが、賑々とうけつづがれている信仰が、かくされているからです。

Q なぜ食事をする(ごちそう)と云うの？
 私たちのまわりには、気が付くと「お、や、や、や」と言っている言葉が少なすぎます。昔から、大切に思われてきたもの、お水、お赤飯、お酒、話は戻りますが、私たちの主食はお米ですから、当然ともいえますが、日本神話に、天照御神様が、孫の養育神様に、国民の主食としてこの稲穂を与えたとあります。そのことが、はじめからしれませんね。

「お諏訪さまからのお言葉」
 過ちを改むるに
 はばかりることなかれ